

宇治市埋蔵文化財発掘調査報告書 第 65 集

宇治市街遺跡発掘調査報告書

(宇治里尻 36 - 6 他・36 - 27 他)

2007

宇治市教育委員会

宇治市埋蔵文化財発掘調査報告書 第 65 集

宇治市街遺跡発掘調査報告書

(宇治里尻 36 - 6 他・36 - 27 他)

2007

宇治市教育委員会

序

宇治市では、現在、「源氏物語のまちづくり」をテーマに総合的な街づくり事業に取り組んでいます。これは、宇治に残されている恵まれた文化財を核にして、歴史と文化に薫る「ふるさと宇治」の創造をめざすものです。

このような、現在の宇治のまちづくりイメージは、宇治がその舞台ともなっている平安王朝時代の文学作品『源氏物語』宇治十帖をメインシンボルとしながらも、具体的には現在に伝えられる平等院や宇治上神社などの世界文化遺産や国宝に指定される文化財があり、さらには白川金色院跡や数多くの藤原氏別業跡などの平安時代の遺跡に代表される、この土地の豊かな歴史性がバックボーンにあることは間違いがありません。

今回発掘調査しました宇治市街遺跡は、現在の宇治の市街地であり観光中心地でもある中宇治地区のほぼ全体に埋蔵される遺跡であり、いわば現在に至る宇治の発展の軌跡がそのまま遺跡化したものともいえます。

発掘調査成果の詳細は後述するとおりですが、古墳時代から近世における土地の変遷が明らかとなりました。特に古墳時代から近世にいたって脈々と続く流路とその流れを利用した人々の営みが鮮明に残されていたことは注目に値するものでしょう。

また、今回流路を境に南北で土地利用のあり方が大きく変化すること、そして宇治市街遺跡が北方にさらに広がっていることが分かりました。宇治の地域的広がりを考えていく上で大きな成果となったのではないかと思います。

本書が多くの方々の目にとまり、広く宇治の歴史を知る契機になることを願うものです。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり、ご理解とご協力を賜りました開発事業者の方々をはじめ、地元町内会の皆様、また専門的なご指導・ご助力を賜りました関係各位に対して心よりお礼を申し上げます。

平成 19 年 3 月

宇治市教育委員会

教育長 石 田 肇

例 言

1. 本書は、宇治市埋蔵文化財発掘調査報告書の第 65 集にあたる。
2. 本書は、宇治市教育委員会が平成 17 年度に実施した下記開発事業に伴う宇治市街遺跡の発掘調査の成果をまとめたものである。

名称	地番	原因	調査期間	調査面積
宇治市街遺跡 (川西地区)	宇治里尻 36 - 6 他	病院及び特別養護老人ホーム建設	平成 17 年 6 月 6 日 ～ 9 月 27 日	2,692㎡
	宇治里尻 36 - 27 他	道路補設	平成 17 年 9 月 20 日 ～ 12 月 2 日	1,220㎡

3. 本書は、発掘調査の記録である基本的な図面と写真を図版として後半に取りまとめ、本文中の挿図と表は発掘調査の成果の説明に必要な 2 次的な資料を主に収録することとした。
4. この遺跡の中心を走る流路（溝）については、宇治里尻 36 - 6 他及び宇治里尻 36 - 27 他について同一のものが検出されており、以下の流路については共通の遺構として扱う。

宇治里尻 36 - 6 他	宇治里尻 36-27 他
SD1381	SD2001
SD1380	SD2150
	SD2151
SD1379	SD2152

5. 宇治里尻 36 - 27 他で見つかった南北方向の溝（SD2330 他）であるが、土器の取り上げ及び調査の手順の関係で同一の溝遺構に複数の番号がついている。そのため、報告に当たって、文中では総称して SD2330 と記述した。ただし、遺物観察表では出土地点が重要と考え各遺構番号で記載している。文中 SD2330 = SD2330・SD2340・SD2360・SD2371・SD2392
6. 本書収録の遺構図面は、現地で電子平板測量した図面を下図とし、整理作業によって変更を必要とした部分に修正を加え、トレースによって仕上げた。また、図面は旧座標にて測量を行ったため、図面も旧座標で統一した。
7. 本書の図版に収録する遺物写真は、寿福写房（寿福 滋）に撮影委託した。
8. 本書の執筆は以下の通りである。
 浜中邦弘（宇治市歴史資料館 文化財保護係主事）・・・・・・・・・・第 I ・ II 章
 西田倫子（宇治市歴史資料館 文化財保護係嘱託職員）・・・・・・・・・・第 I ・ III ・ V 章
 中井淳史（大手前大学史学研究所）・・・・・・・・・・第 IV 章第 2 節
 浅井猛宏（立命館大学大学院生）・・・・・・・・・・第 IV 章第 1 節
 桃井宏和（京都大学大学院生）・・・・・・・・・・第 IV 章第 1 節
9. 出土遺物一覧の作成は西田倫子・中井淳史・浅井猛宏・桃井宏和・大原瞳・木村理恵が担当した。
10. 本書の編集は宇治市歴史資料館文化財保護係が担当し、実務を浜中邦弘・西田倫子が行った。

本文目次

第Ⅰ章 調査に至る経過と調査	1
第1節 宇治里尻 36－6他・36－27他の調査	1
第2節 発掘調査の実施方法	6
第Ⅱ章 宇治市街遺跡の歴史的環境	8
第Ⅲ章 検出遺構	10
第1節 基本層序	10
第2節 主要遺構説明	10
第Ⅳ章 出土遺物	14
第1節 出土遺物の概要	14
第2節 SD2330 出土遺物の概要	18
第Ⅴ章 総括	22
付 載	29
付載1 宇治市街遺跡(宇治里尻 36－6他)における土壤中テフラ抽出分析結果	29
付載2 古地震による泥質堆積物の変形構造	33
付載3 宇治市街遺跡(宇治里尻 36－27他)出土木製品の樹種について	38
付載4 宇治市街遺跡(宇治里尻 36－6他)における花粉・珪藻分析	42
付載5 宇治市街遺跡(宇治里尻 36－6他)出土動物遺存体について	47
付載6 宇治市街遺跡(宇治里尻 36－6他・36－27他)の水路護岸敷石に関する地質学的考察	48
付載7 宇治市街遺跡(宇治里尻 36－6他)出土木簡の釈読について	54

表 目 次

表 1	宇治市街遺跡 (宇治里尻 36 - 6 他) 図版掲載遺物一覧表	23
表 2	宇治市街遺跡 (宇治里尻 36 - 27 他) 図版掲載遺物一覧表	26

挿 図 目 次

第 1 図	試掘トレンチ (1 トレンチ)	1
第 2 図	試掘トレンチ (2 トレンチ)	1
第 3 図	試掘トレンチ配置図	2
第 4 図	試掘トレンチ出土遺物	3
第 5 図	発掘調査実施範囲図と地区割図	4
第 6 図	主要遺跡と古代の地形想定図	9
第 7 図	SD1381・SD2001 出土遺物	13
第 8 図	墨書土器	16